

東通原子力発電所
「横浜断層による地震」の断層モデル設定の概要

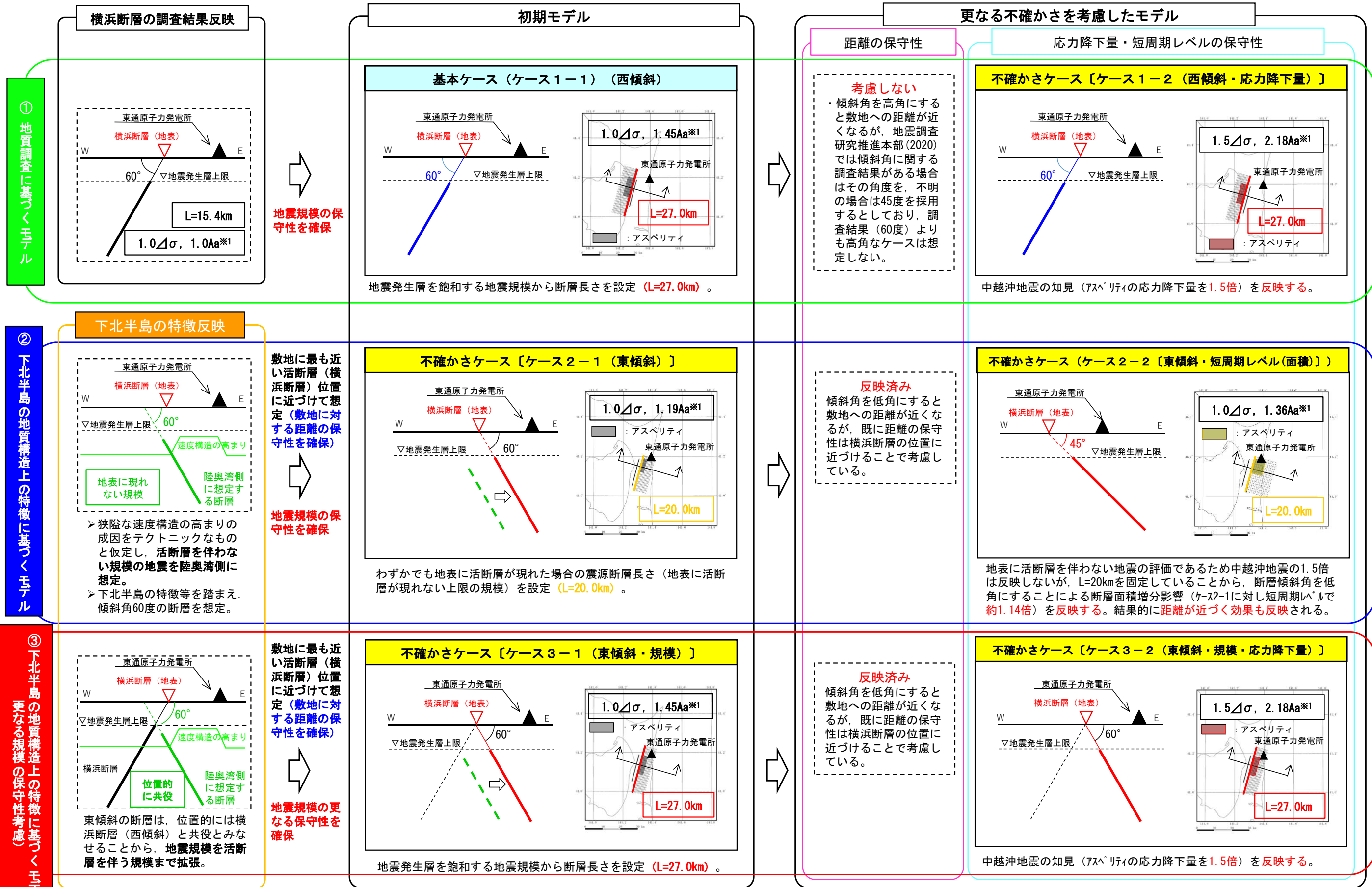
2021年9月17日
東北電力株式会社

「横浜断層による地震」の断層モデル設定の概要

「横浜断層による地震」の地震動評価に当たっては、以下を考慮することによって十分な保守性を確保する。

- 地質調査結果に基づく西傾斜の地震にあらかじめ地震発生層を飽和する地震規模を考慮したモデル（①地質調査に基づくモデル）に加え、不確かさとして、下北半島東部の地質構造上の特徴（中軸部の狭隘な速度構造の高まり）から陸奥湾側に想定される東傾斜の規模の小さい地震を横浜断層の位置に近づけ、活断層を伴わない地震の範囲内で規模の保守性を確保したモデル（②下北半島の地質構造上の特徴に基づくモデル）と地震発生層を飽和する地震規模を考慮したモデル〔③下北半島の地質構造上の特徴に基づくモデル（更なる規模の保守性考慮）〕の2つのモデルを設定する。
- さらに、設定した3つのモデルそれぞれに対し、ガイド等によって要求される不確かさ（アスペリティの応力降下量等）を反映する。

小 → 保守性の程度（審査ガイド等に基づく不確かさ） → 大



※1：アスペリティの短周期レベル。地質調査モデルを基準（1.0倍）として表記。